

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東浦和中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	授業の初めに前時の復習を行い、終わりには授業の振り返りを行うという流れはすべての教科で必ず行うよう、これまでと同様に進めていく。また、問題演習や単元テストも継続して行っていく。加えて、学習習慣のさらなる確立を課題とし、基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために、くりかえし学習をしていく機会をつくっていく必要がある。そのためには、日々の生活の中でICTを活用した問題演習や家庭学習などを、家庭とも連携して進めていきたい。
思考・判断・表現	それぞれの教科の授業において、小グループでのグループ活動を意図的に設定し、多様な考えに触れる機会と自分の考えを表現する機会を増やしていく。そのためのツールとしてのICTを有効的に活用できるような学習活動を進めていく。また、授業の終わりには授業の振り返りを自分の言葉でまとめる時間を確保し、自分の考えを言語化できるような能力を育てていきたい。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 全ての教科における基礎的・基本的な内容のさらなる定着 【指導上の課題】 問題演習や小テストなどの実施およびそれらの結果を分析し授業改善に反映させること	→ ICT等を活用し、継続的に問題演習や単元テスト等を繰り返し、定着を図る。それと同時に、教科横断的な視点を身に付けられる活動を授業に取り入れ、実践する【さいたま市学習状況調査の自校結果において、「知識・技能」の観点の正答率が市平均を上回る】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 文章やグラフなどのデータを踏まえ、自分の考えたことを自分の言葉で表現すること 【指導上の課題】 自分の考えたことを自分の言葉で表現する機会を多く確保すること	→ 自分たちが考えるべき課題を見つけ、解決するために必要な資料、データを探し、それらを活用して自分の考えを自分の言葉で表現する機会を、各教科の単元のまとめの時間や、STEAMS TIMEの時間で取り入れる。【さいたま市学習状況調査の自校結果において、「思考・判断・表現」の観点の正答率が市平均を上回る】

<小6・中3> (4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	各教科で問題演習や単元テストを実践し、定期テストの前ではテスト勉強の計画作成と振り返りの時間を確保した。昨年度以上に各教科で効果測定を行う場面が増え、生徒も繰り返し行うことで自身の課題を認識することにもつながっていると考えられる。
思考・判断・表現	B	各教科で、自分の考えを自分の言葉でまとめ、表現する機会を設けている。少しずつ定着してきた部分もみられるが、全体的に苦手意識を取り除けていない。また、自分の意見を相手に伝え、相手の意見を踏まえて自分の考えを深めるという機会は少しずつ増えてきている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	全国平均に対して、国語と数学はやや上回っており、概ね良好であった。
思考・判断・表現	全国平均に対して、数学ではやや上回っており、概ね良好だった。一方で、国語では、「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」はそれぞれやや上回っていたが、「B 書くこと」ではやや下回っていた。自らの伝えたいことや表現したいことを言語化して表現することに課題があると考えられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語と数学は市平均をやや上回る結果となり、それぞれ無解答率も市平均と比べ低い傾向にある。また、中2の国語と社会は、昨年度の中1の結果以上に市平均を上回っており、基礎的な知識・技能の定着しはじめていくことがわかる。
思考・判断・表現	数学は市平均を上回る結果となった。その一方で、全体的に知識・技能よりも市平均を上回っていなかったり、上回っていてもその値が僅差であったりする傾向にあることから、身に付けた知識・技能をどのようにして生かしていくかという、思考・判断・表現に課題がみられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	ICT等の活用に関する校内研修を実施し、ICTを活用した問題演習や単元テストを実施する機会を増やすことで、それらの結果を授業改善に反映させることができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	各授業で、授業の内容や課題に対しての自分の考えを自分の言葉でまとめる機会を取り入れている。全国学力・学習状況調査の結果において、国語の「B 書くこと」が全国平均をやや下回っていることから、継続して取り組んでいく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

(学校番号206) 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東浦和中学校】

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	さいたま市学習状況調査の自校結果において、「知識・技能」の観点の正答率が市平均を上回る。	⇒ 基礎的・基本的な内容の定着を図るために、より丁寧な問題演習や単元テスト等を繰り返し実施し、結果から課題点を分析し、授業の取組の工夫・改善をしていく。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の自校結果において、「思考・判断・表現」の観点の正答率が市平均を上回る。また、無回答率を市平均より下回る。	⇒ 学習に対する意欲を高め、諦めずに最後まで取り組む姿勢を育てるために、ICTを活用しつつ生徒が自分の活動を振り返ったり、教員から成果をフィードバックし評価する場面を増やす。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%を上回る。	⇒ 授業等で与えた課題に対して、一人で、または他と協働して解決方法を考える時間を設け、粘り強くかつ計画的に課題に取り組ませるよう支援する。また、課題解決後には、自ら考えた解決方法が適切であったかどうか振り返る時間を設ける。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
全国学力・学習状況調査結果	国語：+2 数学：+6 英語：+3
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査において、全国の平均正答率を国語、数学、英語すべてにおいて上回った。R4年度の自校の結果と比較し、数学は+1であった。国語の言葉の特徴や使い方に関する問題で語句や漢字を正しく理解し書くことを苦手とする生徒が多かった。
思考・判断・表現	英語の「読むこと」において、文章の概要を捉えること問題の正答率が低いことから文章から正しく情報を読み取れていないことが考えられる。授業でのリテリング活動を丁寧に行いたい。数学ではデータの分布の傾向を比較し判断する理由を数学的な表現を用いて説明する問題の無回答率が高いため、答えを導く過程を言葉で説明する活動を今後も授業で継続して行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	質問紙項目の「自己有用感」の数値が全国と比べ上回った。「先生がよいところを認めてくれていると思うか」における肯定的な回答は100%であった。しかし「課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んでいたか」における肯定的な回答は89.9%であったが、現在の取組を継続しつつ、子どもたちの活動の目標設定や動機づけをより明確にするなど授業改善に努める。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	「知識・技能」において、国語・理科の全体平均正答率が市平均より1pt.以上上回った。国語の「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率は市平均より10pt.、「書くこと」は4.5pt.上回った。また数学の「データの活用」において、無回答は0%かつ平均正答率は市平均よりも3.8pt.上回ったが、「図形」「関数」の問題における無回答率は市平均より0.9pt.高く、単元により理解度に差があったため、授業では子どもが自分の考えや解答までの過程を書かせる機会を設けるなど改善に努めていく。
中2	「思考・判断・表現」において、社会・理科の全体平均正答率が市平均から1pt.以上上回った。全教科において、「思考・判断・表現」の対象となる問題の平均正答率が市平均より0.7pt.以上上回った。また無回答率も市平均に比べて全ての項目において低いが、無回答率が高い問題に知識を理解した上で説明したり解答したりするものが含まれている。どのような問題にも、あきらめずに取り組もうとする姿勢を育てるために、基礎知識の定着を図るための反復演習や身近な事象と関連づけて考えさせる活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
中3	質問項目の「課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んでいたか」における肯定的な回答は92.2%であったが、目標値より2.3pt.上回った。継続した取組から、子どもたちが主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度のさいたま市学習状況調査の自校結果において、「知識・技能」の観点の正答率が中1数学は0.4pt.社会は0.5pt.、中2国語は市平均を1.4pt.下回ったが、それ以外の各学年のそれぞれの教科については上回った。今後も丁寧な問題演習や単元テスト等を繰り返し実施し、結果から課題点を分析し、授業の取組の工夫・改善をしていく。	A
思考・判断・表現	R5年度のさいたま市学習状況調査の自校結果において、「思考・判断・表現」の観点の正答率が中1理科は0.6pt.市平均を下回ったが、それ以外の教科は上回った。無回答率について、中1数学は市平均より0.9pt.上回った。ICTも活用しつつ、身近な事象と関連付けて考えさせる活動も取り入れて学習に対する意欲を高めていく。	A
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目において、R5年度全国学力・学習状況調査では、肯定的な回答の割合が89.9%であったが、R5年度さいたま市学習状況調査では中3の回答が92.2%であったため、2.4pt.上昇し目標の90%を達成することができた。しかし中1は84%、中2は78%と、いまだ改善の余地がある。	A

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全ての教科で概ね基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。1つの教科や単元で学んだ知識・技能を別の単元や他の教科でも横断的に扱えるように、継続して問題演習や単元テスト等を実施し、定着を図りつつ、教科横断的な視点を身に付けられる活動を授業に取り入れ、実践していく。
思考・判断・表現	文章やグラフなどのデータから正しく情報を読み取り説明したり、答えを導く過程やその根拠を自分の言葉で説明したりする力が課題として見られたため、授業では自分の考えを解答するまでの課程も含めて書いたり、理由を述べたりする活動を取り入れていく。また、子どもたちが身近な事象と関連付けて考えながら解決策を見出す取り組みを行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」の質問項目において、次年度は肯定的な回答の割合をどの学年も85%以上に向上できるように、今年度の取組を継続しつつ、子どもたちの活動の目標設定や動機づけをより明確にし、自らの活動を振り返る機会を増やすなど授業改善に努める。

※評価
 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)